

住民主体のまちづくり

No.50 2018. 3

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

■ 新春の集い

去る1月9日(火)午後1時30分から、車尾地区社会福祉協議会主催で公民館において住民対象の新春の集いが開催され50名余りが参加されました。当日は「オールドニューハウス新春コンサート」と題して、三好寿明さんのアコーディオン・長谷川広規さんのギター・梅木茂さんのベースによるピア樽ポルカなど14曲以上の演奏に聴き入りました。

あっという間の2時間で、楽しい新年のイベントになりました。



■ 特殊詐欺被害を防ぐ

地域モデル検証事業 (最終回)

これまでの調査結果をまとめると ③

本調査の問2では、予備調査後に家族・近所とで詐欺対応策を話題としたかについて訊いているが、性別、年代別等に関わらず「話題にした」は概ね3割半ばとなっており、高い関心度はみられない。一方、本調査の問3の予備調査後の自分自身の特殊詐欺に対する意識の変化状況については、「より注意するようになった・新たに注意するようになった」がやはり性別・年代別等に関わらず、概ね7割前後となったことから、今回の調査が特殊詐欺について家族等と話題を共有するまでには影響しなかったものの、自分自身が考えるきっかけには大きく役立ったことがうかがわれる。

本調査の問5では、車尾地区社会福祉協議会が実施する被害防止策の、(1) 郵便局での詐欺防止

模擬訓練、(2) 運動会等の祭事会場配布の詐欺防止シール貼付どら焼き、(3) 金融機関等に設置の詐欺防止のぼり旗、(4) 詐欺防止寸劇の催し、についての地域住民の認知状況を訊いている。結果は、のぼり旗の認知が7割半ば、寸劇は5割、その他2項目は3割台となっており、日常的に目にするのぼり旗の認知度合の高さを感じられる。また、問6ではこうした防止策の効果の有無を訊いているが、ここでものぼり旗と詐欺防止のチラシを目にしたことが5割超と最も高くなっており、日常生活の中で繰り返し注意喚起することの重要性が見えてくる。ただし、「(効果は) 特にない」とする回答も2割弱存在することから新たな訴求手段の考案、取り組みも必要と思われる。

自分自身で実施している防止策は何かについても本調査の問8で訊いているが、これについては「(留守番電話を活用し) 怪しい電話には出ない」、「新聞等で自発的に被害情報を集める」がそれぞれ4割前後となった一方で、「特にない」も2割弱と一定数に上っている。今後はこうした無対応層に対する意識づけも重要となる。

最後に、本調査の問9で、特殊詐欺を防ぐために地域に対して何を望むかを訊いた結果は、「**特殊詐欺防止マニュアルの作成・配布**」が性別、年代別等のすべてでトップとなり、それぞれで5割から7割となった。これに「高齢者世帯に民生委員が今まで以上に訪問する」および「公民館等に相談所を設置する」がともに2割台で続いた。詐欺防止マニュアルの要望が過半数となったことから、そもそも特殊詐欺とは何かを今一度見直し、もしもの時の対応を再認識しようとする意識が、予備調査、本調査を通して強まった状況がみられるように思われる。また、民生委員による訪問回数アップや相談所の設置要望からは、**地域全体が一体となって被害防止に取り組むこと**の必要性、重要性がうかがわれる。

自分たちのまちは自分たちで(つくる つなぐ つづける)